

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成23年10月6日(2011.10.6)

【公開番号】特開2010-72854(P2010-72854A)

【公開日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-013

【出願番号】特願2008-238385(P2008-238385)

【国際特許分類】

G 0 6 F 9/50 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 9/46 4 6 2 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月23日(2011.8.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

指定された設定に従ってジョブを実行する情報処理装置を支援する支援装置であって、実行済みのジョブにおける設定と、該実行済みのジョブが引き起こしたメモリリークのリーク量と、該実行済みのジョブが使用したメモリのピーク量と、を関連付けて記憶する記憶手段と、

前記情報処理装置に投入される予定のジョブ群と該ジョブ群のそれぞれのジョブを実行する際の設定とを取得する取得手段と、

前記ジョブ群に含まれるジョブに対して、前記記憶手段に記憶された設定と前記取得手段が取得した設定とを比較して、前記情報処理装置で該ジョブが実行された場合のリーク量及びピーク量を予測する予測手段と、

前記ジョブ群に含まれるジョブであって、該ジョブの前記予測されたピーク量と該ジョブに先行して実行されるジョブの前記予測されたリーク量との合計値が、該ジョブ群の実行に許容される前記情報処理装置のメモリ容量を上回るジョブが存在するかを判定する判定手段と

を備える支援装置。

【請求項 2】

前記判定手段は、前記許容されるメモリ容量を上回るようなジョブが存在する場合に、前記ジョブ群の中で最先の順番に実行される予定のジョブを前記支援装置のユーザに通知することを特徴とする請求項 1 に記載の支援装置。

【請求項 3】

前記設定は、ジョブを実行する際のパラメータ値の組み合わせを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の支援装置。

【請求項 4】

前記予測手段は、前記予測するリーク量及びピーク量を、前記記憶手段に記憶されたりーク量及びピーク量のそれぞれの平均値に基づいて予測することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の支援装置。

【請求項 5】

前記予測手段は、前記予測するリーク量及びピーク量を、前記記憶手段に記憶されたりーク量及びピーク量のそれぞれの最大値又は最小値に基づいて予測することを特徴とする

請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の支援装置。

【請求項 6】

指定された設定に従ってジョブを実行する情報処理装置を支援する支援方法であって、実行済みのジョブにおける設定と、該実行済みのジョブが引き起こしたメモリリークのリーク量と、該実行済みのジョブが使用したメモリのピーク量と、を関連付けて記憶手段に記憶する記憶工程と、

取得手段が、前記情報処理装置に投入される予定のジョブ群と該ジョブ群のそれぞれのジョブを実行する際の設定とを取得する取得工程と、

前記ジョブ群に含まれるジョブに対して、前記記憶工程において記憶された設定と前記取得工程において取得した設定とを比較して、前記情報処理装置で該ジョブが実行された場合のリーク量及びピーク量を予測する予測工程と、

判定手段が、該ジョブ群に含まれるジョブであって、該ジョブの前記予測されたピーク量と該ジョブに先行して実行されるジョブの前記予測されたリーク量との合計値が、該ジョブ群の実行に許容される前記情報処理装置のメモリ容量を上回るジョブが存在するかを判定する判定工程と
を有する支援方法。

【請求項 7】

コンピュータを請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の支援装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

上記課題に鑑みて、本発明にかかる支援装置は、指定された設定に従ってジョブを実行する情報処理装置を支援する支援装置であって、実行済みのジョブにおける設定と、該実行済みのジョブが引き起こしたメモリリークのリーク量と、該実行済みのジョブが使用したメモリのピーク量と、を関連付けて記憶する記憶手段と、前記情報処理装置に投入される予定のジョブ群と該ジョブ群のそれぞれのジョブを実行する際の設定とを取得する取得手段と、前記ジョブ群に含まれるジョブに対して、前記記憶手段に記憶された設定と前記取得手段が取得した設定とを比較して、前記情報処理装置で該ジョブが実行された場合のリーク量及びピーク量を予測する予測手段と、前記ジョブ群に含まれるジョブであって、該ジョブの前記予測されたピーク量と該ジョブに先行して実行されるジョブの前記予測されたリーク量との合計値が、該ジョブ群の実行に許容される前記情報処理装置のメモリ容量を上回るジョブが存在するかを判定する判定手段とを備える。